

(様式1・小学校用①)

# 令和3年度 学校評価報告

草加市立新里小学校  
(令和4年2月2日作成)

<b>1 学校教育目標</b> 学校教育目標    かしこく(知)    なかよく(徳)    たくましく(体)  目指す学校像    誇りの持てる学校 新里小 (1) 明るく楽しい学校            (2) 凡事徹底を図る学校 (3) 地域とともに子どもを育てる学校	
<b>2 重点目標・努力目標</b> ○基礎的・基本的な知識の習得と自ら学ぶ力の育成を目指す ○基本的な生活習慣の育成を目指す ○学校・家庭・地域との連携の強化を図ることを目指す	<b>3 前年度の成果と課題</b> 成果○学力向上を目指しての校内研修により、教員の授業力が向上し、児童の学力向上が図れた。 課題●基礎学力の定着、基礎的な生活習慣の育成、不登校児童対策、学校・家庭・地域の連携

<b>4 評価表</b> ※評価基準 [A:十分達成している B:おおむね達成している C:やや不十分である D:不十分である]				
領域	評価項目	評価の観点	評価	成果と課題 ○成果 ●課題
I 学校運営に関するもの	①組織運営	・学校経営目標、方針 ・校務分掌組織 ・適所への適材配置 ・職員会議等の運営 ・予算の執行・決算、監査等	A	○本年度の重点目標の具現化に向けて、教職員が学校運営参画意識を持って具体的な方策を立て、組織的な取組に努めた。 ●校務分掌の在り方を見直し、組織的に分掌内容が行えるよう体制を整備
	②研究・研修	・研究組織、計画、実施 ・校内研修の推進 ・授業改善への取組 ・校外研修会への参加 ・人材育成	A	○国語科の研究授業を中心とした課題研修の取組により、学びあい高めあう教職員集団となった。 ○計画的に示範授業、年次研修等研究授業を実施し、授業力の向上を図った。 ●若手教員の授業力の育成
	③保健管理・安全管理	・保健計画、安全計画 ・環境衛生の管理 ・健康観察、安全点検 ・緊急事態発生時の対応 ・危機管理マニュアルの作成・活用	A	○感染拡大防止に向け、全教職員で共通理解の下、蔓延状況に応じた対応を素早く実施することができた。 ○日々の安全点検を確実にを行い、安全管理の徹底を図った。 ●緊急事態発生時の対応危機管理マニュアルの周知
	④情報管理・施設設備管理	・個人情報の管理、保護 ・施設設備の管理と有効利用	B	○定期的な安全点検により、経年劣化による危険箇所を早期発見し、市教委とも連携して迅速に対応した。 ●個人情報等の管理の徹底

<p>⑤地域との連携 開かれた学校</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校情報の発信</li> <li>・学校公開の実施</li> <li>・学校運営協議会の推進</li> <li>・地域、校種間連携</li> <li>・PTA活動の活性化</li> </ul>	<p>B</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○HPの週3回以上の更新や各種便りにより、情報発信の充実を図った。</li> <li>●積極的な地域人材の活用</li> <li>●コロナ禍に応じたPTAや地域との交流活動の内容の検討、学校公開の仕方の検討</li> </ul>
<p>⑥幼保小中を一貫した教育</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・目指す子ども像の共有</li> <li>・15年間を通じたカリキュラムの編成</li> <li>・一貫教育推進のための組織づくり</li> </ul>	<p>B</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○コロナ禍に応じた交流の仕方を模索し、オンラインによる協議や映像による交流活動を推進した。</li> <li>●さらなる幼保小中一貫教育の推進と、カリキュラムの見直し</li> </ul>

領域	評価項目	評価の観点	評価	成果と課題 ○成果 ●課題
II 教育活動に関するもの	①教育目標・教育計画	<ul style="list-style-type: none"> <li>15年間を通じたカリキュラムの編成、実施</li> <li>教育計画の作成</li> <li>教育活動の評価</li> <li>目標、方針の周知</li> <li>授業時数の配当、確保</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>○学校教育計画のもと、教育活動の見直し・改善を図ることができた。</li> <li>○各教科及び領域の授業時数の確保を図ることができた。</li> <li>●学力向上を核とした教育活動の見直しと取組の継続</li> </ul>
	②教科指導	<ul style="list-style-type: none"> <li>指導計画の立案</li> <li>主体的・対話的で深い学びの視点に立った授業改善</li> <li>評価、評定の工夫</li> <li>外部人材の活用</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>○校内授業研究や研究協議を通して、授業づくりの仕方を学び、教員の授業力向上を図った。</li> <li>○オンライン学習、授業内のICT活用が進み、多様な教育活動が行えた。</li> <li>●教員のさらなる授業力の向上</li> </ul>
	③道徳教育	<ul style="list-style-type: none"> <li>全体計画の作成</li> <li>各教科との関連</li> <li>道徳的実践力の育成</li> <li>家庭、地域社会との連携</li> <li>いのちの教育の推進</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>○授業研究会を実施して、道徳の授業力向上を図った。</li> <li>○道徳部を中心に評価の資料を作成し、指導力の向上を図った。</li> <li>○全体計画に基づき、全教科領域において道徳的実践力の育成を図った。</li> <li>●家庭への啓発・地域社会との連携の推進</li> </ul>
	④外国語・外国語活動	<ul style="list-style-type: none"> <li>指導計画の立案</li> <li>指導方法の工夫と改善</li> <li>評価、評定の工夫</li> <li>各教科、道徳教育との関連</li> <li>中学校との連携</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>○外国語活動部とALTと連携により、授業の工夫・改善を図った。英語ルームの掲示物等、環境整備が整い、学国語・外国語活動を楽しみにする児童が増えた。</li> <li>●教員の授業力向上</li> </ul>
	⑤特別活動	<ul style="list-style-type: none"> <li>指導計画の立案</li> <li>学級活動、学級経営</li> <li>学校行事</li> <li>児童会活動</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>○指導計画に基づいた学級活動を実施することができた。</li> <li>○学校行事は感染症蔓延状況を踏まえ、中止や時期の変更、内容の縮小、やり方の工夫をしながら実施した。</li> <li>●児童の自主性を育む指導計画の工夫</li> </ul>
	⑥「総合的な学習の時間」の指導	<ul style="list-style-type: none"> <li>指導計画の立案</li> <li>指導内容の充実</li> <li>指導方法の工夫と改善</li> <li>評価の工夫</li> <li>地域の人材・物的資源の活用</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>○一人一人が課題を追求する学習を実施する等、学習の充実を図った。</li> <li>●コロナ禍における地域人材の活用、交流活動や体験的な学習の内容検討</li> <li>●年間指導計画の見直し</li> </ul>

⑦生徒指導	<ul style="list-style-type: none"> <li>・組織的な生徒指導</li> <li>・問題行動への対処</li> <li>・教育相談、児童理解</li> <li>・いじめ防止対策</li> <li>・保護者、地域、諸機関との連携</li> </ul>	A	<p>○生徒指導・いじめ防止・不登校対策委員会を中心とした組織的対応、家庭や地域、関係機関との連携等で、早期発見・早期対応・早期解決を図った。</p> <p>●さらなる不登校児童、配慮を要する児童への対応</p>
⑧キャリア教育	<ul style="list-style-type: none"> <li>・計画の立案</li> <li>・指導内容の充実</li> <li>・中学校との連携</li> <li>・啓発的経験の充実</li> <li>・家庭、地域との連携強化</li> </ul>	B	<p>○総合的な学習や特別活動を中心に将来の夢や職業について学び、具体的なイメージ化を図った。</p> <p>●各学年におけるキャリア教育の指導計画の見直し</p>
⑨特別支援教育	<ul style="list-style-type: none"> <li>・個別の指導計画、支援計画</li> <li>・指導方法の工夫と改善</li> <li>・通常学級との交流</li> <li>・諸機関との連携</li> <li>・校内支援体制の整備</li> </ul>	A	<p>○学びの場の検討や支援方法について丁寧な相談を重ね、学校と保護者が連携しながら指導できる体制づくりを図った。</p> <p>○通常学級に在籍する支援を要する児童について、児童実態報告会、不登校対策委員会など多くの機会を捉えて情報共有を行った。</p>
⑩学校図書館教育	<ul style="list-style-type: none"> <li>・指導計画、支援計画の作成</li> <li>・図書館補助員の活用</li> <li>・諸機関との連携</li> <li>・図書館の整備</li> <li>・図書館利用の工夫</li> </ul>	B	<p>○司書教諭、学校司書を中心に読書環境の整備を図り、全学年で読書量増加に向けた取組を行った。</p> <p>○低学年の第2図書館の活用を推進させ、読書活動の充実を図った。</p>
⑪情報教育	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教育計画の作成</li> <li>・校内研修の充実</li> <li>・ICT機器の積極的な活用</li> <li>・情報モラル教育の推進</li> </ul>	A	<p>○ICTを活用した授業が進み、全教員がICT機器を使った授業が行えるようになった。また、どの児童もタブレット端末を活用した学習が行えるようになった。</p> <p>○生徒指導部会を中心にSNSの使い方の約束を作成し、保護者に周知するなど、情報モラル教育を推進した。</p> <p>●ICTを効果的に活用した指導方法の研究</p>
⑫人権教育	<ul style="list-style-type: none"> <li>・全体計画の策定</li> <li>・各教科との関連</li> <li>・人権感覚の育成</li> <li>・校内研修の充実</li> </ul>	B	<p>○校内研修等を通して、教員の人権教育に対する意識の向上を図った。</p> <p>○各教科や道徳、総合的な学習等と関連させて、指導を行った。</p> <p>●人権教育計画の見直し</p>

領域	評価項目	評価の観点	評価	成果と課題 ○成果 ●課題
III 特色ある学校づくり	①学力向上	<ul style="list-style-type: none"> <li>基礎基本の定着</li> <li>書く活動の研究</li> <li>読む活動の研究</li> <li>家庭学習の研究</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>○学力向上推進委員会を中心に指導体制の改善、指導法の研究を図った。</li> <li>○学力向上タイムや授業内のワンワンタイムの実施により、基礎学力の定着に向けて継続した取組ができた。</li> <li>●さらなる学力向上に向けた取組</li> </ul>
	②健康・体力の向上	<ul style="list-style-type: none"> <li>健康増進組織の活用</li> <li>授業外での健康体力の向上</li> <li>家庭との連携</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>○体力向上を目指した体育の授業と体育的諸活動の充実を図った。</li> <li>○外部講師を招聘した歯磨き指導、各種健康診断を活用した健康教育の啓発を図った。</li> <li>●体育科授業の工夫・改善</li> </ul>
	③家庭・地域との連携	<ul style="list-style-type: none"> <li>幼保小中の連携</li> <li>学校応援団との連携</li> <li>学校運営協議会の推進</li> <li>地域人材の活用</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>○学校応援団の協力による安心安全の見守り活動などの充実が図れた。</li> <li>○計画的に学校運営協議会を開催し、地域に根ざした教育を推進した。</li> <li>●幼保小中一貫教育の推進、地域人材の活用</li> </ul>

## 5 総合評価（学校関係者評価を含む）

- 本年度の重点課題である「学力向上」「基礎的な生活習慣の育成」「不登校児童対策」について、どの教職員もその具現化を図るために具体的な方策を持って取り組んだため、「熱意をもって教育にあたる」教職員集団となった。
- 国語科の授業研究を通して、教職員が互いに学びあい高めあい、授業力向上を図ることができた。
- オンライン学習や授業内のICT活用が進み、多様な教育活動ができるようになった。
- 地域やPTA、関係機関との連携によって、児童の登下校を通じた安心安全な学校づくりを推進することができた。
- 生徒指導・いじめ防止・不登校対策委員会を機能させ、早期発見・早期対応に努めると共に、関係機関とも連携し、児童・保護者に寄り添う支援を行っていった。

## 6 次年度の改善策

- 学力向上について
  - ・「できる、分かる、楽しい」授業を目指した授業研究を通して教職員の指導力向上を図る。
- 豊かな心と規律ある態度の育成について
  - ・学年学級経営の充実により、自己肯定感・自己有用感の高揚を図る。
  - ・規則正しい生活、基本的な生活習慣の確立を図る指導を行い、児童の自己指導能力の育成を図る。
  - ・不登校対策委員会をさらに機能させ、組織対応や関係機関との連携により、登校渋りの未然防止、長期欠席児童への支援の強化を図る。
- 両新田中校区幼保小中一貫教育の推進について
  - ・幼保小中で一貫した教育が行える研修のさらなる推進を図る。